

## 仁科台中学校 通知表の見方の手引き

本年度より「新学習指導要領」の完全実施により、学習評価が大きく変わりました。新しい通知表について、ご家庭でご理解いただきたいことについてまとめました。

### Q.そもそも通知表とは…？

#### A. お子さんの学びを振り返り、これからにつなげる資料です！

通知表は、お子さんの「能力を決めつけるもの」ではありません。「成果と課題を共有」し、「これからの成長の参考にする」ためのものです。ですから、他のお子さんとは比べて「家の子はこれしかできていない」と捉えるのではなく、お子さんの「過去の姿」と比べて、「これまでの学習でこのような成果があって、これからこういうところを頑張ればもっと成長できそうだ」という捉え方をしていただければ幸いです。

また、そもそも通知表でお伝えできるのは、お子さんの一部でしかありません。「通知表」という道具でお子さんの可能性を全て決めつけるのではなく、様々な場面、様々な立場からお子さんの成長を総合的に捉え、お子さんの幸せを学校・ご家庭・生徒の三人四脚で考えていく、というのが仁科台中学校の基本のスタンスです。

### Q.昨年度までと大きく変わったのは何？

#### A1. 評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の

#### 3つに整理されました。

「評価の観点」とは、「お子さんの成長を、どのような切り口で見取るか」ということです。全ての教科において、この3つの観点でそれぞれ「A」「B」「C」がつきます。

### Q.具体的に何が違うの？

#### A. 「関心・意欲・態度」という観点が、「主体的に学習に取り組む態度」という観点になり

#### ました。

これまでは、授業に向かう「関心・意欲・態度」が評価の観点でした。つまり、授業の準備の様子や発言回数、宿題の提出率といったものが評価の対象になっていました。本年度からは、「自己調整学習力」と「粘り強さ」という二つの側面から「主体的に学習に取り組む態度」を評価することになります。

「自己調整学習力」は、これまでどのような学びをしてきたのか、自分の成果と課題は何で、これからどのように学んでいくべきか、学んだことをこれからどのように生かしていけ

るか、といった側面から、自分の学習を調整していく力のことです。「粘り強さ」とは、1人では解決できないような問いや課題に対して、教師やクラスメイトと協力し、様々な資料を活用しながら、学びを継続していく力のことです。

「自己調整学習力」と「粘り強さ」は、ワークシートやレポートなどへの取り組み、お子さんの単元の振り返りの記述、授業中の活動の様子などから評価していくことになります。

## 授業の中で、以下のような姿を

**「主体的に学習に取り組む態度」として評価していきます！**

- ・ 周囲と協力しながら問題に取り組もうとしているか。
- ・ 自分の課題点と向き合いながら、自分のやるべきことを見極めているか。
- ・ 自分の成長や成果を言葉にすることができているか。
- ・ 学んだことを、これからの人生につなげようとしているか。

## A2. レポートや作文など、パフォーマンス（実際の表現活動）での評価の比重が大きくなり

ました。

これまでは、定期テストなど、いわゆる「ペーパーテストの点数＝通知表の成績」というイメージが強かったかもしれませんが。本年度からは、テストの点数はもちろん、課題を解決する過程、レポートなどの表現活動、ワークシートへの取り組みなど、お子さんの学びの成果をより「総合的に」評価していくこととなります。つまり、「何を理解しているか」だけでなく、「何ができるか」「理解していることをどう使うか」なども含めて、お子さんの成長を見取っていく、ということです。

## Q.「総合的に評価する」ってどういうこと？

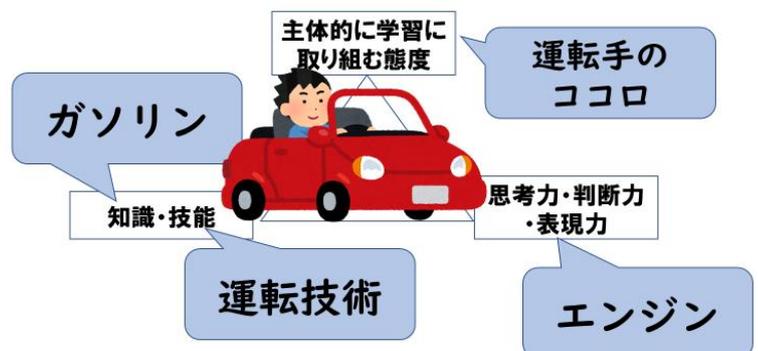
### A. 車の運転でイメージすると…

「知識」＝「ガソリン」

「技能」＝「運転免許」

「思考力」＝「エンジン」

「判断力・表現力」＝「実際の運転」



「主体的に学習に取り組む態度」

= 「ドライバーの心」

です。それぞれの要素には、

強い関わりがあります。

例えば、昨年度までは、「関心・意欲・態度」と「知識」「思考・判断・表現力」はそれぞれ別物、という捉え方でした。よって…

- テストで点は取れなくても、授業は真面目に受けて、提出物はきちんと出していた。  
→「知識」や「思考・判断・表現力」の評価は低くても、「関心・意欲・態度」は高評価。
- テストで点を取れていたが、授業での態度に課題があった、  
→「関心・意欲・態度」の評価は低いが、その他の観点は高評価。

本年度からは、「主体性」と「思考・判断・表現力」はセットで発揮されるもの、「知識・

技能」はそのために使われるもの、という捉え方になります。よって…

- レポートやワークシート、授業の振り返りなどへの取り組みを、「学びに向かう人間性」「思考・判断・表現力」の両方の観点から評価。
- テストの点数を、「知識・技能」「思考・判断・表現力」の二つの観点から評価。

…のようになります。まとめると、以下のようになります。

観点	主な評価材料	見取っている内容
知識・技能	テストの点数 レポートやワークシートなど 技能テスト	何を理解しているか 何ができているか
思考・判断・表現力	テストの点数 レポートやワークシートなど 授業中の発言 授業の振り返り	理解していることを どう使っているか
主体的に学習に取り組む態度	レポートやワークシートなど 授業中の発言 授業の振り返り 活動への取り組み方	どのように学んでいるか 学んだことを、人生や社会と どう関わらせているか

以上のように、単純にテストの点数が高ければ、通知表の数字も高いものになる、というわけではありません。様々な場面、様々な角度から見たお子さんの成果と課題を、総合して見取っていくこととなります。よって、ABCの数と1～5の値がそのままお子さんの学力を単純にランク付けしているわけではありません。その内訳は、昨年度までより幅のあるものになっています。

大切なのは、その内訳についてお子さん自身がしっかりと理解し、これからの学習に活かしていくこと、そして教師と保護者が連携して、その後押しをしていくことだと考えています。教科ごとの所見なども参考にしながら、それぞれの観点で、どのような成果と課題があるのか、そしてこれからどのように学んでいけばよいのか、といったことについて、ご家庭で話し合う機会として、通知表をご活用ください。

大町市立仁科台中学校

担当：藤森 祐介

学校：22-1817